

黙示録 9 章 13 節—10 章 4 節 スタディーガイド

黙示録 9 章 12 節に「第一のわざわいは過ぎ去った。見よ、この後なお二つのわざわいが来る」と書かれていました。考えられないほどの恐ろしい出来事が、第一のわざわいでした。

今回の学びは、第二のわざわいです。

★ 黙示録 9 章 14 節—16 節

その声がラッパを持っている第六の御使いに言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。

14 節「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き放せ。」

大川ユーフラテスは、創世記 15 章 18 節で、神様がアブラハムに約束した土地の境界線です。神様の民を亡き者にしようと、サタンや悪霊が働いていましたが、そのことを実行させようとする墮天使がつながれていたと考えられます。

聖書では、大川ユーフラテスの付近は、異端宗教にかかわるイスラエルを攻撃する国々、アッシリアやバビロンのような所を表しています。

15 節「すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。」

出エジプト記 34 章 7 節で「罰すべき者は必ず罰して報いる者」と誓われた主の正しい裁きの御心を行う者として、主が確保しておられた者たちです。

15 節「人類の三分の一を殺す」

第五のラッパである第一のわざわいは、人間を拷問にかけるような痛みを与える時でしたが、第二のわざわいである第六のラッパは、人類の 3 分の 1 が殺されるという出来事です。

16 節「騎兵の軍勢の数は二億であった。私はその数を聞いた。」

2 億の軍勢は、大川ユーフラテスの所に縛られていた墮天使によって召集されたと考えられます。

神様の正しい裁きの日に召集される墮天使たち、2 億の軍勢が世界中に使われます。

これらの軍勢が人間ではないことが、次の学びによって分かります。

★ 黙示録 9 章 17 節-21 節

私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、獅子の頭のように、口からは火と煙と硫黄とが出ていた。これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。馬の力はその口とその尾とにあつて、その尾は蛇のようであり、それに頭があつて、その頭で害を加えるのである。これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。

17 節「火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は、獅子の頭のように」

17 節「口からは火と煙と硫黄」

これらが馬の口から噴出しています。このようなものが、世界中を走り回っているのです。言い表しようのない恐怖を人々に与えるでしょう。

18 節「これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された」

馬の口から噴出している火と煙と硫黄によって、人類の 3 分の 1 が殺されています。

黙示録 6 章の封印の災難の時に、人類の 4 分の 1 の人々が殺されましたが、ここでは残りの 3 分の 1 の人々が殺されていますから、人類の半分が殺されたこととなります。

19 節「馬の力はその口とその尾とにあつて、その尾は蛇のようであり、それに頭があつて、その頭で害を加えるのである。」

馬のしっぽが蛇のようで、頭がついています。そのしっぽの頭で、人間に害を加えることができます。

第一のわざわいであった第五のラッパの災難で、さそりのような尾を持って人々に害を与えていたように、頭のついたしっぽで人々に害を与えています。

20 節-21 節「これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。」

封印の災難の時も同じように、災難が神罰であることを知りながら、人々は悔い改めませんでした。

★ 黙示録 10 章 1 節-2 節

また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の上に、左足は地の上に置き、

1 節「強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。」

最後のわざわいが始まる前に、ヨハネにいくつかの幻が与えられます。

1 節「その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。」

神様のご臨在、シャカイナグローリーを現している御使いを見えています。

2 節「その手には開かれた小さな巻き物を持ち」

第七のラッパである第三のわざわいと、これから先に起こる奥義が書かれているものだと考えられます。

黙示録の中に出てくる二つ目の巻物です。一つ目は七つの印が押されていた、5 章に出て来る小羊の巻物です。ここに出てくる巻物は開かれています。

2 節「右足は海の上に、左足は地の上に置き」

この巻物に書かれている奥義が、全地に及ぶことを示していると理解できます。

★ 黙示録 10 章 3 節-4 節

獅子がほえるときのように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があった、「七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな」と言うのを聞いた。

3 節「獅子がほえるときのように大声で叫んだ。」

アモス書 3 章 8 節や、ホセア書 11 章 10 節に、神様が語られる時、獅子がほえるような声であることが記されています。

3 節「彼が叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。」

1 章ではラッパのような声、そして大水の音のような声などが出てきましたが、ここでは

獅子がほえるときのような大声、そして雷が声を出しています。

これらはすべて、偉大なる声を表していますが、どれも語っていることがはっきりと理解できていると考えられます。

4節、「七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があつて、『七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな』と言うのを聞いた。」

このメッセージは、ヨハネだけに与えられたものです。

なぜ七つの雷が言った奥義を、私たちが知ることが許されていないのか、その理由は記されていないので分かりません。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY